スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県藤岡市

自 治 体 名 ： 群馬県藤岡市
担 当 課 名 ： 教育委員会学校教育課
電 話 番 号 ： 0274-50-8212

1.自治体の基本情報

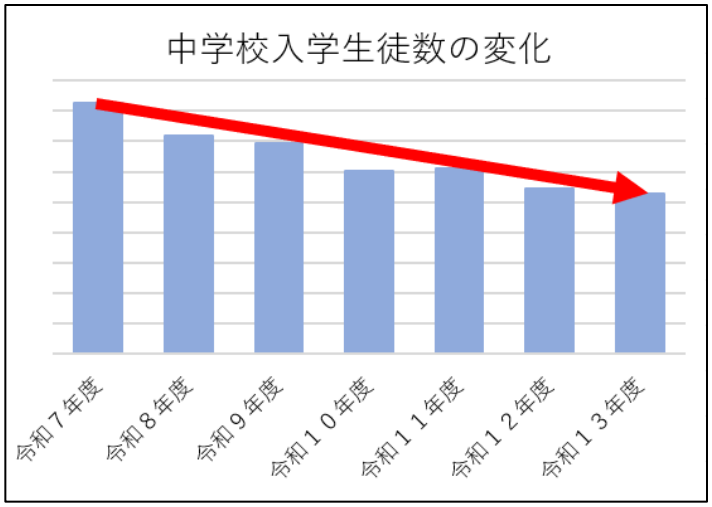
スポーツ庁

基本情報

面積	180.29㎢
人口	59,687人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	1,423人
部活動数 （運動部活動のみ）	59部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

◇ 令和7年度から令和13年度に中学校に入学する生徒数の推移は、7年度413名、8年度358名、9年度347名、10年度301名、11年度305名、12年度272名、13年度264名と一貫して減少していくことが予測されている。7年間で中学校入学生徒数は約36%の減少が見込まれる。
◇ 来年度に単独でチームを組むことが難しい、あるいは廃部の見込みがある部活動が、すでに6つ確認されている。該当するのは軟式野球、サッカー、バスケットボール、ハンドボールといったチームスポーツである。部活動という枠組みから地域展開への必要感が、少しずつ高まることが予想される。
◇ 部活動に関わる教員、生徒、保護者の部活動の地域展開への意識を踏まえつつ、関係団体との協議を行い、段階的に地域展開を進めていく。
◇ 部活動指導員から地域クラブ活動での指導者として関わっていただいている事例が2件ある。（剣道・男子バスケットボール）
◇ 今年度は地域移行協議会参加者を一旦しぼったが、改めて広く関係団体等に参加していただけるようにしていく。
◇ 安定して指導者の確保ができる体制に至っていないので今後も指導者の発掘を継続して行っていく。
◇ 受益者負担についての検討が進んでいないので、負担額等についての検討を進める
◇ 部活動指導員が、地域指導者としても関わっているため難しい手続き等がなく学校施設を開放できている。
◇ しかし、必ずしもその体制が取れるわけではないので、体制整備について検討していく。



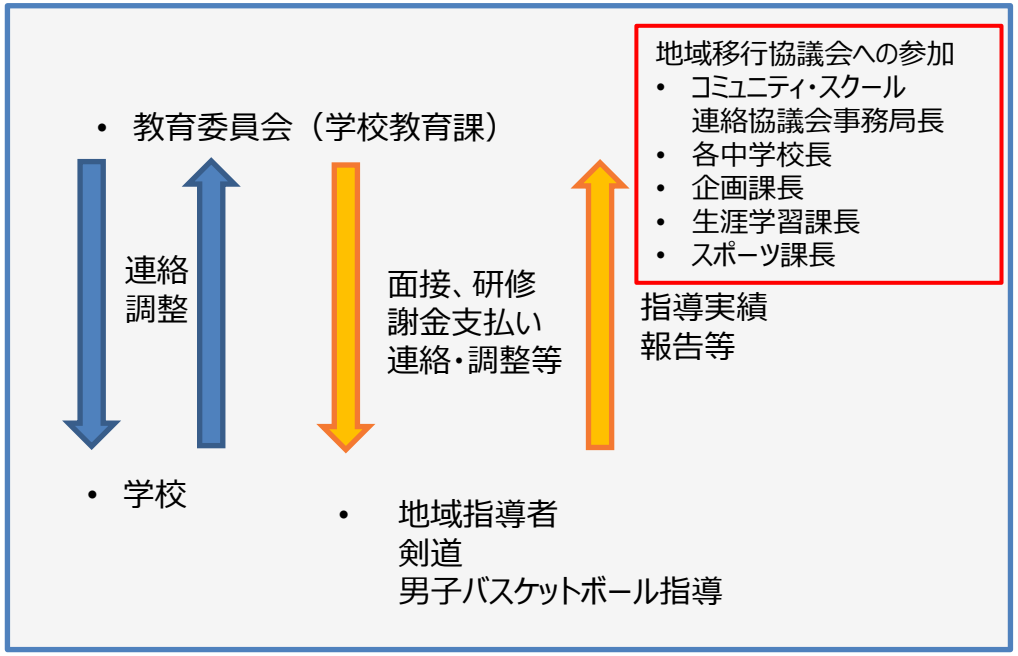
【各年度5月1日生徒数および学級数調査の数値より】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課課）
・学校や指導者との連絡調整　・地域指導者との面接、研修の実施
・指導実績の管理、謝金の額の確定

◉首長部局（企画課）
・地域移行協議会への参加

年間の事業スケジュール

藤岡市事業スケジュール	
4月	クラブ活動の市内全校生徒への周知、募集
5月	活動開始
6月	
7月	
8月	
9月	近隣市町村からの情報収集
10月	次年度予算検討
11月	
12月	中学校入学説明会に向けた検討・協議
1月	生徒、保護者、顧問対象アンケート 次年度の方向性について保護者周知
2月	次年度の方向性について保護者周知
3月	次年度の計画の作成、検討

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		2クラブ（計2部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	0人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
男子バスケットボールクラブ	教育委員会	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 33回	午前中	3年 3人 2年 6人 1年 3人	5月～1月	1人	0人	0円/年額（等）	中体連
剣道クラブ	教育委員会	剣道	・平日 0回 ・休日 9回	午前中	3年 7人 2年 6人 1年 9人	5・6・10・11・12・1月	1人	0人	0円/年額（等）	中体連

2.実証内容と成果

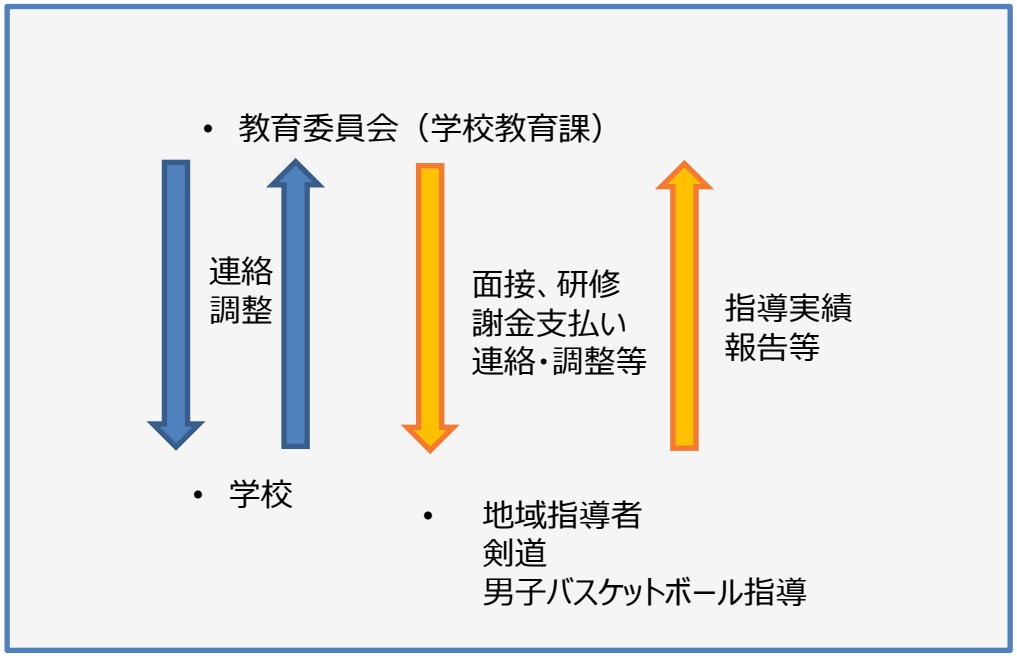
スポーツ庁

主な取組例

●男子バスケットボールクラブ・剣道クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール 剣道
運営団体名	教育委員会
期間と日数	バスケットボール：月3回程度 剣道：月1回程度
指導者の主な属性	個人
活動場所	学校体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	バスケットボール：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人：1,850円/年 1人：1,200円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：学校や指導者との連絡調整を行う
　　指導者との面接、指導者への研修を行う
　　消耗品の手配を行う　等

●指導者　2名

役割：バスケットボールや剣道の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

藤岡市地域移行協議会を1回開催（通算6回）
昨年度まで、市の単費で行っていたモデル事業の成果と課題について報告したり、今年度から実施した地域スポーツクラブ活動体制整備事業の現状等について報告したりした。また、来年度以降の藤岡市における地域展開の方針について共有し、協議を行った。
地域指導者に安全面や生徒とのかかわり方等について研修を行った。
実証事業に参加した指導者、生徒、保護者にアンケートを行った。

取組の成果

地域移行協議会の報告や協議の中で、学校現場の声を聴きながら方向性を検討できた。
アンケートの回答から、地域指導者がやりがいを感じながら指導に当たっていただけたことが分かった。また、来年度も継続して指導をしていきたいという思いも共有することができた。
アンケートの回答から実証事業に参加した生徒や保護者は地域展開に関して好意的にとらえていることが分かった。

今後の取組における課題

地域移行協議会に関して予定回数よりも実施回数が少なくなってしまった。地域スポーツクラブ活動体制整備事業を今年度から開始したこともあり、情報収集がうまくいかなかった面があったため、情報を発信するまでに時間がかかってしまった。
運営団体の整備について進んでいない現状がある。
新たな実施主体の整備（指導者の確保）の見通しが持てていない。
アンケート対象がまだせまい部分がある。

課題への対応方針

スポーツ課等、他部署との連携を強め、アンケート調査対象の幅を広げ、さらに情報収集を進めながら協議会を定期的に行っていくことで、地域との情報共有に努めたい。
運営団体の整備に関して、既存の団体等に声をかける等、整備に向けて取組んでいきたい。

コーディネーターの具体的な動きの実績

練習回数や練習時間の相談。
必要物品の確認、手配。
必要資料作成。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

指導者とSNSで連絡を取り合い、情報共有をこまめに行った。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

藤岡市の部活動の運営に関する指針を基に、練習日数や練習時間、休日の設定等について情報共有をした。これにより、参加生徒に過度の負担がかからないように配慮した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

事故が発生した場合には、現場にいる指導者が必要に応じて救急要請や保護者への連絡を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

部活動指導員として生徒との関わりがある方に地域指導者として指導にあたっていただいた。また、安全面や生徒とのかかわり方について研修を行った。
教員の兼職兼業に関して、他地域での運用の事例等情報収集を行った。
県の指導者バンクでの人材確認やスポーツ協会の協力団体の指導可能者の確認等を行った。

取組の成果

中学生への指導経験がすでにある方に地域指導者として関わっていただいたため、生徒や保護者の安心感につながった。
また、競技指導だけでなく安全に関する指導も行ってもらえたため、生徒が危険なプレーを避けることも学び、安全面の確保にもつながった。
兼職兼業の仕組みについての理解が深まった。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

県の指導者バンクでの人材確認。
藤岡市スポーツ協会の協力団体の指導可能者の確認。
部活動指導員の中で、地域指導者として指導が可能でありそうな方への働きかけ。

指導者研修の内容

研修名	地域展開指導者研修
講師	教育委員会指導主事
研修内容	中学生世代の特徴を踏まえた指導の在り方や保護者対応、安全確保に向けた取組等に関する研修

今後の取組における課題

スポーツ協会常任理事会での情報発信まで至らなかった。
現状では指導者の質の部分についての心配がないが、これから多くの指導者に関わってもらう際のチェック体制等についての検討が必要。
教員の業務改善に向けた取組の推進が求められる。
兼職兼業に関して、教員の残業時間との関係で進んでいない。
指導者バンクの指導者と学校や生徒のニーズとのマッチがうまくいっていない。

課題への対応方針

スポーツ協会とのかかわりが強いスポーツ課との連携を強め、情報発信に努めていく。
今年度は指導者との連絡・相談が主だったものであったが、生徒や保護者との連絡・相談窓口のようなものについて検討できるようにしていく。
地域指導者として指導を行いたい教員に向けた情報提供等を行い、地域展開での指導が可能になるような働きかけに努めていく。

指導者研修受講者の声

受講者は2名

受講者①
すでに指導の中に生かしていることではあるが、安全への配慮や生徒の思いを組んだ指導の大切さを改めて確認できた。

受講者②
競技力の向上にばかり目が向くことなく、部活動の教育的要素を大切にして、人としての成長にもつなげていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

県の人材バンクでの人材確認は行ったものの、登録の推進といった連携強化にまで至らなかった。

取組の成果

人材バンク登録者の把握。

今後の取組における課題

今年度の実践から得た成果と課題等をまとめ、具体を示しながら連携強化につなげていく必要がある。
関係団体・分野への情報提供や情報共有が不十分。

課題への対応方針

関係団体の会議等に参加するだけでなく、情報を集めやすくする情報共有方法や人材バンク登録の推進方法について検討していく。
スポーツ課等、他部署との連携を強め、協力可能な団体に働きかけながら藤岡市版の人材バンクの作成・活用について検討していく。



群馬県とも連携。ぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンクを積極的に活用する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

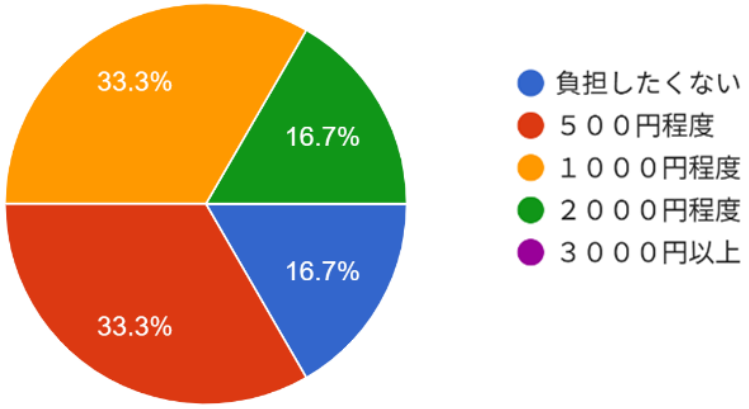
取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

受益者負担として、支払いが可能と感じる金額について実証事業に参加した生徒の保護者に向けて、アンケートを実施。

Q.「地域スポーツクラブ活動」の費用の負担について月あたりいくらまでなら、家庭で負担してもよいと感じますか。



取組の成果

受益者負担として支払い可能と感じる上限は2,000円程度だった。それ以上の額はアンケートの選択肢にあっても選ばれなかった。
回答の中には支払いたくないとの回答もあった。部活動のイメージを強くもっているようだった。

今後の取組における課題

現状では国の事業を活用し、受益者負担なく地域展開を進めるきっかけとしての取組ができたが、保護者の受益者負担についての理解を深めていく必要がある。
受益者負担が生じることがなかったため、生活困窮者への行政支援については進んでいない。今後を見据えて検討を進めていく。

課題への対応方針

アンケート対象や受益者負担に関する説明の幅を広げ、保護者の理解を深められるよう努める。
受益者負担額や生活困窮者への行政支援について、今後を見据えて検討を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

用具使用・管理等における取組

学校体育館倉庫の一部を地域展開での消耗品等の置き場として開放。





取組の成果

体育館の一部を開放できたことで、備品や消耗品の管理がしやすくなった。
※事業計画書記載内容ではないが、部活動指導員としても関わっていただいている方に地域指導者としても関わっていただけているため、学校施設の開放や備品の管理がしやすかった。

今後の取組における課題

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

学校施設利用の手続き方法等については具体的な検討ができていない。

課題への対応方針

学校施設利用に関する手続きを管轄する部局との連携を強化を目指す。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

平日の移行については、男子バスケットボールで4回練習を実施。

取組の成果

平日に地域指導者からの指導が可能だったこと自体が成果と捉えられる。
実現可能性について見通しをもつことができた。

今後の取組における課題

平日の移行について、持続可能なものになっていない。
移動時間、練習に必要な用具の運搬等を現実的に捉えると、平日に複数校から生徒が集まり練習をすることは、藤岡市内の学校間の距離等から、現状ではかなり難しい。

課題への対応方針

できる範囲で少しずつ平日の移行に取組んでいくことが現実的と考えられる。まずは休日の移行について進めていく。
1つの部活動をそのまま地域指導者に見ていただけるような展開を中心に考えていく。



【男子バスケ：作戦確認】



【男子バスケ：ストレッチ補助】

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業開始初年度として、多くの情報を得ながら活動に取組むことができた。大きな一歩になったと感じる。地域指導者として関わっていただいたお二方に感謝したい。

生徒や保護者の思いにふれられたものもあったので、その思いを大切にしながら、今後の地域展開に生かしていきたい。また、部活動に携わる教師の立場にもしっかりと目を向け、生徒、保護者、教師たちにとって納得できるものになるように勧めていきたい。

特にあげられる成果

○ 地域展開のモデルとして選定した剣道とバスケットボールの練習について、他の中学校からの参加をオープンにできた。
○ 競技指導だけでなく、ルールや審判技術についての講習も企画、実施した。

明確になった課題

▲ 参加がオープンになったものの、複数の中学校の生徒が練習に参加する際、練習会場への移動が難しい。中学校間の距離が影響する部分がある。
▲ 複数校の生徒が集まり合同で練習を行っても、中体連の大会に参加する際には、練習仲間が敵味方に分かれてしまうという状況が生じ、心情面的に複雑である。

●成果の評価

実証事業に参加したことで、これまで把握しきれていなかった生徒や保護者の意識について、アンケート等でふれることができた。好意的に捉えているものの、やはり学校という枠から外に出ることへの不安感も少なからずあったので、このことを理解しながら丁寧に進めていく必要があることが再確認できた。

また、地域指導者について、部活動指導員としての取組から地域展開につなげられたことはとてもよかった点だと感じる。技術指導だけでなく、審判法やルールの講習等も安全・安心な取組につながる取組だったと感じる。

しかし、指導者の質や量の確保についてはまだまだ大きな課題があることも事実である。今後の取組の軸の一つとして、展開を進める中に生かしていく。

●今後に向けて

- 指導者の確保については記述していないが、ずっとある課題である。積極的に地域とのかかわりをもてる体制づくりに努める。
- まだ地域展開を一気に推し進める段階には至っていないが、地域連携を含め、できることから一つずつ進めていけるよう努める。
- また、地域展開を進めるうえで、大きな要素となる推進計画や認定制度について、具体的に作成を進めていけるよう努める。

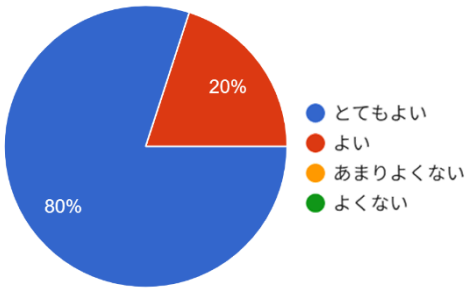
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

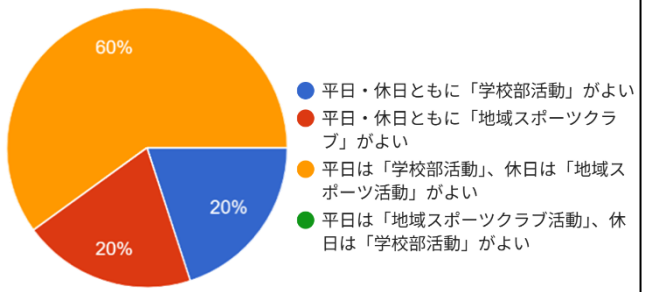
アンケート結果・参加者/関係者の声

●生徒アンケート結果

Q.参加した「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを選んでください。

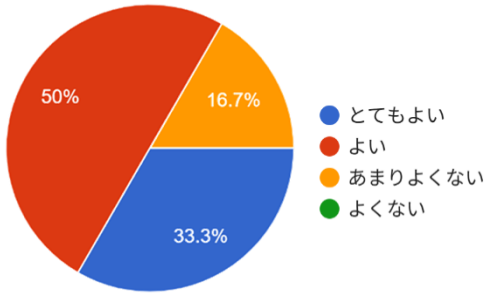


Q.今後の「学校部活動」と「地域スポーツクラブ活動」の実施について、あてはまる気持ちを選んでください。

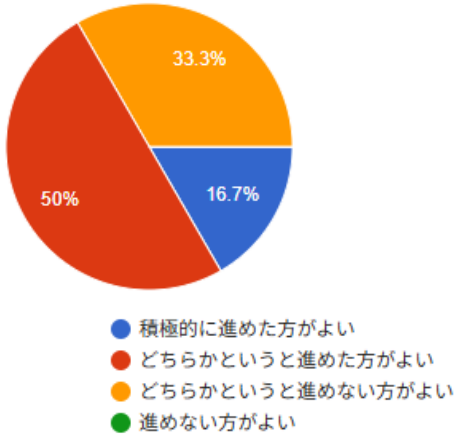


●保護者アンケート結果

Q.「地域スポーツクラブ活動」で、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを選んでください。



Q.今後の「地域スポーツクラブ活動」が進むことについて、あてはまる気持ちを教えてください。



●参加者/関係者の声

地域指導者

顧問の先生と学校のルール、授業に取組む姿勢、部活動の活動計画等について共有しながら、競技力向上の指導に偏らないようにした。この取組にとてもやりがいを感じ、来年度も関わっていきたいと考えている。

部活動顧問

自分が経験してこなかった部活動の顧問になったので練習メニュー等を考えるのに時間がかかっていたが、今回専門的な指導ができる方に関わってもらえて、生徒にとってもよいことだと感じた。また、自分自身の負担も減ったように感じる。

生徒

これまでだと顧問の先生の都合が悪いときには練習ができなかったけど、今年度は練習ができてよかった。続いてほしい。それと、専門的な内容も増えて、教えてもらえるのもとても嬉しい。

保護者

学校部活動でも同じですが、いじめがなく、教育の一環としてのスポーツ活動となる様にしていただければと思います。
また、指導者の方は安心して任せられるようなお人柄を求めたい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【剣道：打ち込み稽古】



【剣道：試合形式での稽古】



【剣道：練習終了後指導者からの講評、生徒振り返り】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年		令和5年		令和6年	令和7年
協議会設置、検討開始	拠点校の選定 アンケート実施	市単費モデル事業開始	児童生徒、保護者への情報提供	実証事業参加意思表示	実証事業開始

部活動指導員の積極的配置　　令和6年度までに地域移行協議会を5回実施

●ステークホルダー
藤岡市スポーツ協会長
藤岡市文化協会長
藤岡市スポーツ推進委員会長
藤岡市中体連会長
コミュニティ・スクール連絡協議会事務局長
企画課長
スポーツ課長
学校教育課長
●経過
運動部活動の地域移行に関する検討会議
提言について共有等の情報共有
現状での課題把握
アンケートの準備・実施
●実施にあたって生じた課題
地域移行を行ってもそこに子どもを参加させたいと考えている保護者は10パーセントに満たない状態だった、進めていけるか自体が課題と言えた。

拠点校選定
●ステークホルダー
教育委員会
学校長、部活動顧問
●経過
単独での実施が難しい部活動に関して、拠点校の決定について検討
●実施にあたって生じた課題
拠点校とした学校への移動方法、移動時間、練習時間とのバランス
●実施内容、工夫した点 等
一度に解決できる問題ではないので、回数を重ねながら段階的に進めていく

●ステークホルダー
教育委員会　部活動指導員
●経過
市単費でのモデル事業での成果と課題をもとに、地域指導者としての活動が可能かを部活動指導員に確認、依頼（2名）
剣道、男子バスケットボールにて地域クラブ活動を開始

市単費モデル事業
●ステークホルダー：教育委員会、藤岡市サッカー協会、陸上競技地域人材
●経過：　5～7年度3年計画でスタート
●実施内容、工夫した点 等：SNSを使った情報共有
●実施にあたって生じた課題
・サッカー：年度ごとの部員数の違いにより合同練習の必要感がなくなった
・陸上競技：指導者はいるものの生徒が望む種目の指導ができる指導者とのマッチングでできなかった、7年度は合同練習等に至らなかった

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年度重点課題

- 国のガイドラインや県の推進計画を基に、藤岡市地域展開推進計画を作成
- 認定制度について藤岡市における認定の方向性等を検討、決定の上、関係諸機関に周知していく
- 拠点校方式について、拠点となる学校や種目について具体的に検討
- 部活動指導員の積極的配置の継続
- 地域スポーツクラブと、部活動指導員の連携について検討
- 藤岡市版人材バンクの作成に向けた検討

令和8年度～10年度「改革実行期間」（前期）／令和11年度～13年度「改革実行期間」（後期）

- 実行期間（前期）で休日の部活動を地域にあずけられる体制の整備を進める
- そのための指導者の発掘・選定を進める（教員の兼職兼業についても検討を進める）
- 現行の地域スポーツクラブ（剣道・男子バスケットボール）による指導の継続
- 指導者へのリスクマネジメント等に関する専門的な研修を行っていく
- 部活動地域展開を扱う専門部署、人員の配置について検討
- 国からの補助がなくなっても運営できる体制整備について検討、受益者負担の額等についても並行して検討していく
- 練習以外の、運営全般についても地域で自走できる体制整備を目指す
  ※できるところから進めていく　特に休日の地域展開に関して重点を置いていく

生徒、保護者、地域、教員等、複数の立場から納得できるよう情報の共有、共通理解に向けた協議をしながら進めていく